

令和5年度（第5回）社会教育委員会議 会議録

- 1 開催日時 令和5年12月22日（金） 14時00分～16時00分
 - 2 開催場所 中央図書館 視聴覚室
 - 3 出席委員 大山委員、日置委員、坂田委員、岡本委員、後藤委員、黒田委員、川上委員、菅原委員、兼子委員、徳田委員、小倉委員、山尾委員、高橋委員（13名）
 - 4 欠席委員 久保田委員
 - 5 出席職員 小南教育長、杉本教育指導部次長、今津教育指導部参事、井上教育指導部参事、衣笠教育指導部参事、梅野社会教育課長、田村中央図書館長、又賀資料担当係長、小浦指定管理施設担当
社会教育課（川向地域家庭教育係長、浮田主査）
 - 6 傍聴者 0名
 - 7 議事要旨
- 開会 14時00分
委員長あいさつ、教育長あいさつ

（協議事項）

- （1）読書活動の推進について
（中央図書館より説明及び現地見学）

委員

読み放題パックの案内は、学校では保護者に案内を送付しているが、学校としてはあまり使用しておらず、利用については各家庭に任せている状況である。そのため、もう少し利用の呼びかけが必要であると感じた。

各学校への貸出があまり活用出来ていないと感じる。他市であれば、図書館から学校へ定期的に本を届ける制度がある。学校数も多く、配達に人員が必要となるが、その様な取組があれば児童・生徒たちに本を読んでもらえるのではないかと。

中央図書館

図書館でも物流が一番の課題だと考えている。各学校に案内は行っているが、各校の先生方に中央図書館まで直接本を取りに来てもらうのは、大変労力のかかる場所である。こちらも学校へ本を届けたいと考えているが、その方法が一番の課題となっている。市の西部にある学校は、中央図書館ではなくウェルネスパーク図書館で本の受け取りが出来るようにする等の改善は行っているが、やはり学校に本を直接届けるのが理想だと考えている。しかし、改善がなかなか進んでいない部分である。

委員

国立国会図書館のデジタル図書館は中央図書館にある端末でしか利用出来ないのか、市内の他の図書館では利用出来ないのか。

中央図書館

中央図書館での利用のみとなる。

委員

図書館の概要で、中央図書館と加古川図書館の実績の説明があったが、市内のウェルネスパーク図書館と海洋文化センター図書室については、指定管理の関係で今回は説明がなかったのか。

また、説明のあった取組について、市内である程度統一されて実施されている部分と、各館で特色のある部分との区別を明確にして紹介してもらった方が分かりやすいと感じた。

中央図書館長

中央図書館と加古川図書館は教育委員会の所管となっており、ウェルネスパーク図書館と海洋文化センター図書室については市長部局の所管する図書館であるため、分けを行っている。

委員

普段はウェルネスパーク図書館か高砂市の図書館を利用している。

それぞれの館に特色があると思うが、高砂市の図書館では施設に入って1番に目にするのが、本日の返却図書のコーナーであり、図書館の利用者が現在どのような事柄に関心があるのかを知ることが出来るようになっている。加古川市の図書館でも様々な工夫をされていると思うが、他にも工夫があってもいいのではないかと思う。

委員

図書館のホームページが市内統一の様式でありあまり変わり映えがないように感じた。他市は図書館独自のホームページを作成しているところもある中で、加古川市のホームページは面白みが感じられない。

中央図書館

ホームページのトップページの写真等の変更が可能であり、定期的に変更する等の工夫は出来るので、検討していきたい。

委員

中央図書館の建物には以前視聴覚センターがあり、視聴覚センターでは映像や音声データ資料の収集や保存を行っていたと思うが、その資料については現在図書館で取り扱いをしているのか。

中央図書館

その資料については現在図書館では取り扱いをしていない。

委員

私が在籍していた頃の資料については館内2階に保管されている。当時は貸出も検討したが、記録媒体も再生機器も古いため、無理に再生しようとするデータ破損の恐れがあるため、実現出来なかった。

委員

現在、図書ボランティアという形で、学校図書室の運営に携わっている。参加している野口小学校では、現在蔵書が1万冊ほどあり、図書担当の先生と20名程度の図書ボランティアで、書籍の整理等をはじめとした図書室の整備を行っている。

学校司書教諭の資格を持つ先生であっても、担任や学年主任と学校図書室の運営とを兼務するのは負担が大きく、先生方にしわ寄せが行っていると感じるので、専門の司書を検討いただきたいと思う。専門の司書が在籍していれば、図書室の本の管理に加えて、先程課題として挙げがっていた、市立図書館からの本の貸出もスムーズに行うことができると思う。また、学校が期待している本を的確に子どもたちに提供ができると思う。

教育長

中学生の大部分が日常的に本を読んでおらず、子どもの読書離れは大きな課題であると認識している。司書については毎年設置要求を行っているが、実現していないのが現状である。

現在、加古川図書館は図書館流通センターが指定管理を行っている。図書館流通センターの持つノウハウを使いながら、市内4つの図書館だけではなく、学校図書室の活性化を何らかの形で図りたいと強く思っている。

司書教諭というのは必ず置くことがルールとなっており置いているが、現在は担任や学年主任等の役割を持った上で、肩書として置かれているという状態であり、司書教諭としての活動ができておらず、各校の図書室も十分に活用が出来ていない状態であり、課題を感じている。

委員

今回の会議に際し、学校図書室のボランティアの方や市民の方から意見を聞いてきた。

その中で、やはり学校に専門の司書教諭を設置してほしいとの意見を聞いている。司書の仕事は経験が必要であり、別の業務の片手間で出来るものでも、学校図書ボランティアが業務の全てをカバーできるものでもないため、設置してほしいとのことだった。

他にも、「0歳児のブックスタート」事業を加古川市でも実施してほしいという意見のほか、移動図書館の復活を望む意見、市立図書館の書籍購入費の増額を望む声もあった。

また、図書館司書の多忙化及び高齢化が進んでいるが、図書館の規模や提供するサービスの維持のため、今後も司書の数を減少させることなく採用を行ってほしい。

中央図書館

加古川市ではブックスタート事業に替えて、「はじめまして絵本」という事業を行っている。ブックスタート事業では0歳児に絵本の提供を行うが、「はじめまして絵本」では図書館の職員が絵本を紹介する冊子をつくり、4ヶ月健診時に保護者に渡している。

絵本を提供するブックスタート事業が実現出来ればとは考えているが、現在は冊子にて絵本を紹介するに留まっている。なお、配布している冊子については保護者に好評を得ており、2、3年に一度改版を行い新しい情報を届けるようにしている。

委員

幼い頃からの読書習慣は読書離れを防ぐには必要なことだと思うが、学校の先生方にはそこまでの余裕がないと思うので、新しい制度や人員の配置が必要であると思う。昨今の流れから、読書離れは避けようがない状況だと感じているので、様々な専門的な観点から読書離れを防ぐ仕組みを考えてほしい。

委員

「はじめまして絵本」の冊子配布については、良い試みだと思った。

岡山県では、生後3ヶ月の子どもがいる方の自宅を訪問する際に、絵本をプレゼントしている。訪問時にこの「はじめまして絵本」の冊子があったらいいなと感じた。また、小学校に児童の母親が出向き、年に何度か児童に読み聞かせを行う機会がある。その際、母親たちは図書館で借りてきた本の読み聞かせを行っている。子どもたちは読み聞かせの本に興味を持って図書館や学校の図書室に本を借りに行き、母親たちも小学生向けにはどんな本があるのか図書館に質問をしに行くなど、図書館に足を運んでもらう一つの流れが出来ているように思う。また、私が図書館を訪れる際には、図書館の入り口に時期に応じたテーマに沿った本が紹介されており、その展示を見ることが一番楽しみとなっている。特に7月頃からは読書感想文に関する本が並ぶ姿を見ているので、加古川市の図書館でも少し工夫してテーマに沿った展示をされてもいいように感じた。

電子書籍に関しては、本が好きな子どもであれば一気に読んでしまう量だと感じたので、月を経るごとに利用数が減るのは当然だと感じた。継続的に新しい本を導入しなければ電子書籍も活用しなくなるのかなと感じている。ただ、その一方で職業柄、学生には電子書籍よりも紙の本を触ってほしいとも感じている。

なお私は現在、認知症におけるエスノグラフィーについて研究を行っている。エスノグラフィーとは民族学のことであり、認知症の方が話す内容の真偽を確かめるため、必ず図書館へ赴き、郷土資料から当時の状況を確認できるようにしている。そのため、郷土資料をより気軽に見に行ける場所があればいいと思っている。

中央図書館

兵庫大学の学生の方から園児のための読み聞かせの絵本について相談がある。保護者の方からも同じような相談があるので、どこかの学校で読み聞かせ等が実施されている可能性があるように感じた。

また、ご指摘のあったテーマ展示については、加古川市の図書館でも実施しているが、取り上げるテーマの分野に偏りがあり、分野によっては紹介が足りていないと感じる部分もあるので、テーマ選出時にもう少し意識掛けが必要であると感じた。

委員

中学生の読書離れは大きな問題だと思っているが、昔とは異なり学校の課題も多く、娯楽の選択肢も増えており、時代の流れを考えると仕方のない部分もあるとは思う。

ただ、小学校の時から読書が好きな子どもは成長しても長い文章を読むことに抵抗がない。中学校になってから読書の習慣をつけるのは難しいので、小学校の時に読書習慣をうまくつけるのが1番良いのではないかと思う。

委員

読書感想文については、生成AIやチャットGPTなどで本のあらすじや感想が簡単に出てくるので、子どもたちの想像力が失われることを危惧している。

中学校には、図書委員会があるので、夏休みなどに委員が中央図書館で図書館の魅力を学んだ上で、生徒らが自分たちの学校の図書室に学んだ成果を反映出来るような仕組みがあればいいと思う。また、中学校の図書室が整備されていない場合は中央図書館の方に中学校に来ていただき、

生徒たちに魅力的な図書室を作るための手ほどきをしてもらえれば面白い学校図書室になるのかなと思った。

委員

平岡南中学校の図書室は、以前は普通教室にあったが、現在は PC ルームであった部屋を新たに図書室としている。その際、学校支援コーディネーターの方にも新たな図書室づくりに携わっていただいた。図書室が新しくなってからは、ボランティアの方が来られる日に昼に放送を入れている。絨毯の上で座って本を読むようにする等、子どもたちにとって過ごしやすい環境をつくることで、徐々に利用者が増えてきている。司書教諭も必要だとは思うが、図書室を利用者が楽しんで利用できるスペースにすることも大事だと感じている。

また、そのような環境を作るためには、学校支援ボランティアや保護者に声かけして、一緒に環境をつくっていくことが必要だと思う。

図書館にはボランティアを希望する人を集めて研修会を開いていただき、子どもたちを図書室に集める方法などについて研修を行ってほしい。その際、図書館の本を見てもらうなどして図書館及び学校図書室の活性化に努めてほしい。

委員

加古川図書館は令和3年度に駅前の施設に移転した。利便性の良さもあると思うが、きちんと整備をすれば利用者は増えているように読み取れると思う。中央図書館も建築されてから40年近くが経過しており、今の時代にあった施設に変える必要があると思う。ただ、改修には相当な費用と時間がかかるため、数年のうちに解決する問題ではないと考えている。相当な労力がかかることだとは承知しているが、よく考えていただきたいと思う。

(報告事項)

(1) 兵庫県社会教育研究大会(11/29)の参加報告について

○ 閉会 16時00分

徳田副委員長あいさつ

以上